

女性を動かす
地域を動かす

全国「リビング新聞」編集長の、 私たちの読者は、これで動く！

全国56エリアに広がる「リビング新聞」。一番の自慢は、読者との距離の近さです。情報を発信するだけでなく、読者を動かし読者をつなぐのが得意技。地域に密着し、女性を元気にしたいという一心から、日々、紙面企画やイベント企画に知恵を絞る各編集長たちが、2012年に実施した中から“読者が動いた！”と実感できた事例をご紹介します。

Musashino

サンケイリビング新聞社
リビングむさしの

石川香里

武蔵野本部 編集長



いまや“イクメン”は当たり前！
父子で行ける場所が求められています

父の日に開催した『パパと子ども（乳幼児）の読み聞かせ＆ランチ会』。パパには縁遠い（？）オシャレなカフェで朝食をとった後、皆で読み聞かせや絵描き歌を楽しむというもの。定員20組に対し80組の応募が殺到しました。ママに言われて嫌々参加したのかと思いきや、「自ら参加したかった率」100%！「母親がいなくて、食事の世話などが大変でしたけれど、いない方が楽しんでよね…」という参加者の声が印象的。“父子”で行ける場所が求められているのかもかもしれません。

Tokyo

サンケイリビング新聞社 リビング東京中央
東京西 東京南 東京東 東京リビング

和田直子

東京本部 編集長



2日間で4000人超の来場！
子どもオタムフェスティバル

10月20日・21日、お台場のパナソニックセンター東京で「子どもオタムフェスティバル」を開催。主に小学生低学年以下の親子、約1400家族、合計4050人が来場しました。本部一丸となって企画した、「子どもアイン教室」「カメラマン体験」「子どもアナウンサー」などの体験も、事前のWEB予約で開催前に定員オーバーするほどの人気。イベント当日ははいけつゾロリが来るステージに長い行列ができた。会場は一日中キッズの歓声であふれていました。

Kashiwa

サンケイリビング新聞社
リビングかしわ

向山奈央子

葛城本部 編集長



夏休み「宿題村」オープン！
ホテルランチは親子99組が舌鼓

暑かった昨年夏、帝国ホテルグループ「サ・クレストホテル柏」を会場に、「宿題村 with 親子ホテルランチ」をオープンしました。小学生の夏休みの宿題対策や特別体験となるカルチャー10ブースが集合。DIYや星空教室、キッズネイル、スイーツテコなど、多彩な講座を展開しました。昼には親子99組が一堂に会し、シェフが作る特別ハンバーグランチに舌鼓。いつも落ち着いた雰囲気のホテルも、この日はかりごと子どもたちとお母さんたちの笑顔であふれました。

Tochigi

栃木リビング新聞社
リビングマロエ

和田美紀

編集企画本部 副編集長



全メーカーが集まれば
モーターフェスも家族イベントに

「2012とちぎモーターフェスティバル」が4月14日・15日、宇都宮市郊外にある大型ショッパの駐車場で行われ、1万2623人が来場しました。その多くが家族連れ。男性が多くながちなイベントですが、①リビングで特販を掲載（主婦が見る）②全メーカーの新車・中古車を展示（面倒な梯子をしなくて済む）③会場を人気ショッピングモールにする（帰りに買い物や食事ができる）④無料のヒーローショーを開催（子どもがぐずらずに済む）、などの要素で客層を変えられました！

Fukushima

福島リビング新聞社
リビング鶴山

鈴木朱美

編集長



5人の編集長が“来福、
桃のおいしさと安全性をPR

原発事故以来、風評被害に苦しむ福島の農産物。リビングネットワークの媒体力でそれらを払拭しようと、仙台・栃木・東京・湘南・静岡の編集長が福島に集結。桃の生産農家、放射線モニタリング検査場、市場などを一緒に訪ね、現状を取材。各エリアのリビング新聞でその様子を掲載してくれました。記事内で募集した桃の試食モニターには総数5499名の応募があり、大反響。ネットワーク力を生かして他県の読者に、果物王国・福島の魅力を伝えることができました。

Sendai

仙台リビング新聞社
リビング仙台

藤崎由紀子

編集長



クリスマス時期のお楽しみ！
子どもたちの笑顔があふれています

クリスマス時期に、親子を対象とした「リビングクリスマス劇場」を開催しています。アニメ映画の上映とクリスマスステージを組み合わせた恒例のイベントで、一昨年の参加総数は定員いっぱい2141人。クリスマスのるんるん気分を高めるだけでなく、仙台の冬の風物詩「SENDAI光のページェント」も合わせたお出掛けとして好評。サンタや、なぜかウシも登場し、子どもたちとジャンケンをする場面も。笑顔があふれる一日は、社員全員のパワーにもなっています。

DenenToshi

サンケイリビング新聞社
リビング田園都市

林ひろ子

編集長



地域一番店で創刊15周年事業開催、
定員190人に1100人の応募が

エリアの中でも一・二といわれる高級な店舗「あざみ野 うかい亭」で、田園都市創刊15周年事業を実施。特別仕立てのメニューを堪能し、「飛び出せ編集部」に参加できる趣向です。わずか5日間で限定枠190人に対し、1100を超える応募殺到。イベント当日は、着飾った田園ミセスたちが来店し、さながら美術館のような調度品に溜め息。また手入れの行き届いた洋風庭園で、「娘に自慢できるわ」と記念撮影に収まる初老のミセスの姿も。地域に反響の輪が広がる一日となりました。

Yokohama

サンケイリビング新聞社
リビング横浜東 リビング横浜南

川戸眞澄

横浜本部 編集長



ハードロックカフェで歌い踊る
ハマのミセスはライブが大好き！

リビング横浜創刊40周年記念「サマーパーティー」を7月3日に開催。みなとみらいのハードロックカフェ横浜店を午後5時～7時の間貸し切りで、読者84人が参加（参加費4800円）。懐かしのナンバーを聴きながら、名物のハンバーガーなどで食事。最後にロックバンドが登場しライブが始まると、会場は一気にヒートアップ。総立ちになって歌い踊るハマのミセスたちに、「若い人より断然ノリがいい」と店のスタッフは驚くことしきり。ディスコ世代がはじけたひとときでした。

Tama

サンケイリビング新聞社
リビング多摩

石河久美

多摩本部 編集長



読者とともに歌った「レクイエム」
1000人を超える観客と心が一つに

3月16日、読者で結成した108人の女声合唱団が半年間の練習を経て、震災チャリティー「モーツァルトレクイエム演奏会」を開催。実は企画当初、「合唱の演奏会はお客さんと呼ばない」と言われていたのですが、当日は会場の立川市市民会館がほぼ満員となる1000人超の来場者が！合唱団員、観客と多くの読者と心が一つになったことを実感し心が震えました。演奏会の収益金200万円は震災遺児のための養育金として、「あしなが育英会東北事務所」にお届けしました。

Chiba

サンケイリビング新聞社
リビング千葉

西脇英子

千葉本部 編集長



女は少しずついるのが大好き！
バスでぐるりと試食ツアー

ブランド米のおにぎりを1個、摘みたていちご数粒、極上さば寿司を1切れ、そんなふうにしずつづつぐるりとバスで巡る「バスでぐるりと試食ツアー」。2012年2月と6月に千葉県内2コースで開催。3000円台の参加費、限定90人の募集、2回とも600人強の参加希望をいただきました。観光スポットの参加希望をいただきました。観光スポットは、2カ所、お昼はなしなのに、みんなちょっとずつのグルメが大好き。試食品を無料提供してくださる地元の方からも、PRになると喜ばれています。

Funabashi Narashino

サンケイリビング新聞社
リビングふなばし・ならしの

依田由利子

千葉本部 副編集長



震災復興のために歌いたい！
読者75人のコーラス隊が舞台へ

東日本大震災からの復興を願って歌う女声コーラス隊結成の呼びかけに、読者75人が結集。歌が好き！皆と力を合わせたい！その熱いだけで7回の練習をほぼ皆勤賞でクリア。3月、バイオリニスト・川島成道さんのチャリティーコンサートの場をお借りして、5曲を歌い上げました。川島さんの演奏とともに、「見上げたら星の夜」を会場のみんなで合唱したフィナーレでは、感動の嵐。歌は心にパワーを授けてくれると確信した一瞬でした。

Saitama

サンケイリビング新聞社
リビングさいたま

丸山実木

埼玉本部 編集長



知られざる「スイーツのまち」
読者オスメ店の掲載が、情報拡散に

さいたま市は首都圏の中でも菓子やパン店の数が多く、スイーツの消費量が多いという地域特性があります。市は市内の小売店・飲食店等でしか買えない・食べられない情報を収集しPRする「さいたまスイーツプロモーション」を企画。埼玉本部が受託しました。オスメの店を教えてください！との募集に255件もの情報が、紙面やインターネットに掲載される「推薦した店が掲載されてうれしい」「この記事で店めぐりをします」という声が集まり、読者参加が情報拡散につながるかと実感！

Hiroshima

広島リビング新聞社
リビングひろしま

松浦啓子

編集部 副編集長



手作り・雑貨好きのミセスが協力
ハンドメイドイベント

ハンドメイドのイベントが盛んな広島。弊社でも、主婦によるイベントグループとコラボし「わくわくのおうち in リビングフリマフェスタ」を開催しました。2日間で43店が出店、同時開催のフリマと合わせて約2万2000人が来場。出店者や企業の協力で、「チャリティーくじ」、「チャリティーワークショップ」など東日本大震災の復興支援活動も行い、14万9850円を相馬市に寄付させていただきました。ハンドメイドは今後も魅力あるコンテンツとして注目していきたいです。

Fukuyama

福山リビング新聞社
リビングふくやま

岡田千恵

編集部 編集長



2日で1万1500人来場・500ブース出店
「1万人のメガフリママーケット」

フリマは、エコライフを送上で欠かせない循環型ライフスタイルの象徴イベント。11月に開催した「リビングふくやまエコ・コミュニケーションSPECIAL～1万人のメガフリママーケット」には、2日で500ブースが出店、約1万1500人が来場。開門前から長蛇の列、会場内も大盛況で、「ファミリーや女性たちから大好評。環境・エコに積極的な取り組みをしている企業ブースも設け、来場者の暮らしに役立つ情報も発信。入場料は1人100円(中学生以上)で、その収益も上々でした。

Okayama/Kurashiki

岡山リビング新聞社
リビングおかやま リビングくらしき

新山 隼

編集部 編集長



家族の気持ちがふれあう大切な日
「リビングファミリー宝探し大会」

「お母さん、お父さん、見つかった?」。子どもたちの大きな期待に応えようと、額に汗して宝を探す大人たち。2012年秋で第10回を迎えた「リビングファミリー宝探し大会 in おもちゃ王国」には、約3000人のファミリーが参加。1枚の宝札を家族が力を合わせて探します。両手を抱えきれないお土産を持ち帰れる魅力もさることながら、普段、仕事で忙しいお父さんが子どもたちに「存在感」を示せる日でもありました。入場料は、物でなく家族の心をつなぐふれあいでもあるのです。

Shizuoka

静岡リビング新聞社
リビング静岡

松永恵理

編集部 編集長



ご夫婦で出かけるきっかけに!
「美味しい」映画祭開催

「映画の街」として市民に親しまれる静岡市美区七間町の映画館で、4日間限定の「美味しい」映画祭を開催。映画館側と何度も打ち合わせを重ね、実際に観賞、「美味しい」も「食」をキーワードに、家族の絆や愛情、過去との決別、生きることの大切さ、夫婦で観賞できる4作品を選びました。「夫館で映画館に来るの久しぶり。若い当時を思い出した」「二人で出かけるきっかけになった」という声が続出。夫婦の心をとらえた良いイベントを行うことができました。

Shonan

湘南リビング新聞社 リビング湘南
リビング平塚・大磯・二宮

福島祥子

編集部 編集長



歌声サロン・歌謡祭…
「歌う」は元気のモト!

いくつになっても歌はいいですね。ホールを会場に、生演奏に合わせ客席全員で合唱する「歌声サロン in 湘南」を、2012年だけで3回行いました。60代～80代もいて、フォークソングや昭和のポップスなどで青春時代を謳歌。4回目も好評集中です。また秋には「第1回リビング歌謡祭」を開催。元々の自慢司会者・吉川精一さんによる「本物」の司会もあって、定員を上回る応募。全身ドレスアップした老若男女の出演者による、元気が華やかなステージが繰り広げられました。

Machida Sagami

サンケイリビング新聞社
リビングまちだ・さがみ

増淵直子

編集部 編集長



ゆかたを着ておトクをゲット!
老若男女が楽しめる夏祭り大好評

町田市中心市街地の4つの流通、地元の商店・学生、町田市観光コンベンション協会が、コラボして開催された「町田まるごと夏まつり」。本紙の広告とパンフレットの企画制作を依頼され、ゆかた着用で参加するとプレゼントがもらえるイベントや、68店舗のクーポンなどがお得がいっぱいという内容を見やすくまとめました。町歩きイベントには250人以上が参加。ビアガーデンも満員御礼という盛況ぶり。WEBでの展開も好評で、早くも「来夏もぜひ」という動きが。

Kita Kyusyu

西日本リビング新聞社
リビング北九州

奥永智絵

編集部 編集長



買い物は子どものいない平日に
子連れの場合は「おトク感」重視

「手作り作家&人気パン屋のマルシェ」では、午前中に来場者が集中。参加者によると「子どもがいない平日昼間だと、ゆっくり見ることができるとのこと。雑貨やパンなど主婦の買い物」は、平日開催でも集客が見込めると感じました。反対に休日開催だった「ロールケーキカフェ」イベントは、1ロール+1ドリンクのセットのみだった昨年と違い2ロール+1ドリンクの価格もおトクな出張りセットを新設。ほとんどのが欲張りセットの注文で、家族連れが多く見られました。

Matsuyama

えひめリビング新聞社
リビングまつやま

小原明美

取締役編集長



家族の夢やうれしいことを創る
本の表紙になれる?キッズ撮影会

えひめリビング新聞社では、子どものための遊び場や自然体験情報などをまとめた『おでかけエンジェル』を年1回発行。人気は表紙のキッズ写真。表紙には、撮影会で撮った写真から1人を選定。その無料撮影会が毎年秋から、提携写真館やイベント会場、公園などで繰り広げられます。わが子が本の表紙を飾るという手の届きそうな夢は、親だけでなく祖父父もまた同様。家族の熱も入ります。こんな「いい予感のすること」を創っていくのがリビング新聞の仕事だと思っています。

Takamatsu

高松リビング新聞社
リビングたかまつ

石川恭子

編集部 編集長



読者の夢のパンを人気店が実現
5分で完売、1日100個…と大好評

リビングの特徴はやっぱり読者との距離の近さ」と実感したのが6月9日号1面「リビング夢のパンまつり」です。これは、読者のアイデアをもとに人気店が商品化、期間限定で販売する企画。「こんなパンほしい」という熱い思いに、お店の人が真剣に応えてくれたパンは、力作ぞろいとなりました。それを紙面で紹介したところ、「バゲットが1日100個」、「5分で予定数を完売」など大反響。紙面を「読者と一緒に作った」ことが、高レスポンスにつながりました。

Kyoto

京都リビング新聞社
リビング京都

山舗恵子

編集部 編集長



20代～70代の幅広い年齢層に
ワンコイン朝活イベントが好評

「朝早く起きて、夜早く寝る」という自然のリズムに沿ったライフスタイルの実現と、夜間エネルギーの使用量減少を目的に、市民向けに夏の朝活イベントを京都市と共催で開催。このイベントに20代～70代と、幅広い年齢層の読者が参加しました。早朝からハスの花が咲く瞬間を見に行く、お寺で座禅、大文字山に登る、豆腐作りにチャレンジなど京都の自然や文化をテーマにした、10のイベントを実施。「ワンコイン(500円)で参加できる気軽さがよかつた」と、各年代から好評でした。

Shiga

滋賀リビング新聞社
リビング滋賀

牧 綾子

編集部 編集長



1日で売り手にも買い手にも
忙しい有職ミセスは効率性で動く

創刊30周年事業のひとつとして、5月に商業施設で「リビング新聞フリーマーケット」を開催。これまで「リビング夏まつり」を開催し、同まつりの中でフリーマーケットも実施してきました。今回は好評のフリマだけをワンコインアップ。出店応募もブース30のところ、応募は3倍の90以上も。当日の来場者は3000人を超え、会場は終日、大賑わい。1日で効率良く、売り手にも買い手にもなれるのがフリマの魅力。忙しい有職ミセスを動かすには効率性も大きなポイントです。

Nagoya

名古屋リビング新聞社 リビング名古屋東
名古屋中央 南山の手 北かすがい・こまき

中島幸子

編集部 編集長



暮らしを豊かにするイベント
「ホンモノ♥プロジェクト」に応募が殺到!

毎日の買い物は「1円でも安く!」と頑張るけれど、産直野菜やオーガニック化粧品といった自分のこだわりは大切にしたい。そんな確かな目と豊かな心を持ったミセスが学び、交流できる場として「ホンモノ♥プロジェクト」をスタート。第1弾として、食のエキスパートが牛肉の栄養価や美容効果、食べ合わせなどをレクチャーするイベントを企画したところ、応募が殺到。当日も熱心なメモを取る姿が見られるなど、ミセスのホンモノ志向を再確認できるイベントとなりました。

Kagoshima

南日本リビング新聞社
リビングかごしま

内村由美子

編集部 編集長



シニア世代こそ好奇心旺盛!
「iPad講座」が予想以上に大反響

全国的にインターネット普及率が最下位クラスの鹿児島県。ところが今年9月、iPadの活用術を学ぶ講座を始めたところ50代～80代のシニア世代に大反響。2か月間で無料体験会の参加者は300人超、100人以上が有料講座で継続受講中と盛況です。元々デジタル機器に触れる機会が少なかった世代だけに、iPadへの憧れはかなりのもの。初心者向け「のアプリや無料体験が功を奏したように、シニア男性の受講者が予想以上に多く、読者層の幅広いを知る機会にもなりました。

Kumamoto

熊本リビング新聞社
リビング熊本

松田恵美子

編集部 編集長



頭張る阿蘇を応援! 275人が参加
災害救援ボランティア活動パスツアー

7月12日の集中豪雨で甚大な被害を受けた阿蘇エリア。熊本を代表する温泉地のひとつ、内牧もまさに水没状態に。「メディアとして今、何ができるのか」を考え、関連会社のTKUヒューマン(旅行業)とともに、現地ボランティアセンターにすぐ出向きヒアリング。急遽、ボランティアパスツアーを組み立てました。9日間の催行で、当社社員も含め延べ275人が参加。「リビングのツアーだから」と、ボランティア初心者にも快く参加いただき、復旧作業の人手不足解消に一役買うことができました。

Fukuoka

西日本リビング新聞社
リビング福岡

野尻由香

編集部 編集長



いまだ在宅ワークから袋張りまで
主婦に内職人気!

梅雨時の6月16日号で「家にいながらプチ稼ぎ」という、内職をテーマにした紙面を作成したところ大反響。いまだ在宅ワーク事情や、昔からある内職工場の読者体験レポートなどで紙面を構成。「内職できる所を教えてください」「掲載されている工場は?」など具体的な問い合わせが30件以上寄せられました。また1日間で紹介したshufftへの登録も多数あったと報告あり。「子どもが小さい」「本格的に働くのは不安」などさまざまな事情から、主婦の内職へのニーズは想像以上に高いようです。

Himeji/Kakogawa

播磨リビング新聞社
リビング姫路 加古川

春名沙季子

編集部 編集長



地元のと洋菓子店とコラボ!
オリジナルスイーツが好評でした

「リビング姫路」の400号記念として実施した、地元の和洋菓子店との400円スイーツコラボ企画。リビングだけのオリジナルスイーツを各店に考案してもらい、限定販売を実施。行列ができた店や、連日売り切れになる商品もあり、争奪戦が繰り広げられた模様。協力先には老舗店と新店を選定。おなじみのお店では新感覚のスイーツが楽しめ、新店には足を運ぶきっかけに。スイーツ遊びには嬉しい地元ミセスたちと地元のお店をつなぐ、大盛況の企画となりました。

Wakayama

和歌山リビング新聞社
リビング和歌山

野田知世

編集部 副編集長



若年世代に乳がんを啓発
無料検診には200人以上が申し込み

女性が気になる病気「乳がん」。そして近年増えてきているのが30歳代の罹患率です。そこでフロント特集として啓発記事を展開し、講演会と30歳代を対象とした無料検診を企画したところ、受け付け開始わずか30分足らずで80人の定員に達し、キャンセル待ちも約1時間終了。後の申込者には啓発パンフレットの送付で対応しましたが、受けられなかった人も含めると200人以上の申し込みがあり、講演会には約100人が参加。多くの女性読者の関心を集めました。

Osaka/Hyogo

サンケイリビング新聞社
リビング大阪 兵庫

吉田三千代

大阪編集部 部長



読者が開発メンバーに
オリジナルアプリが好評

9月25日の主婦の日、読者6人が開発に加わった、スマホのオリジナルアプリが誕生しました。これは、リビング新聞とデジタルハリウッド大阪校のコラボ企画によるもの。会議、試作を重ねた成果が、見事、6本のミセス向け無料アプリに結実。微妙にやせられる(!?)「3カ月」で魔法の、to doリスト「メモっとこ!」などのラインアップに、ダウンロードも上々です。スマホユーザーではなく読者も高い関心寄せ、ミスとスマホの好相性が発見できる企画となりました。